

①外国語(英語)コアカリキュラム対応表(一覧)

外国語(英語)コアカリキュラム対応表(一覧)

大学名	阪南大学
学部・学科等名	国際学部 国際コミュニケーション学科

<小学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
	教科に関する専門的事項			
	各教科の指導法			

<中学校> ※「教科に関する専門的事項」は、「一般的包括的科目」のみ記載すること。

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)	対応授業科目(4)
2	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論		
			英語音声学概論		
3		英語文学	英文学概論		
			米文学概論		
4		英語コミュニケーション	Advanced Oral Communication 1		
			Advanced Oral Communication 2		
5		異文化理解	異文化コミュニケーション論		
6-7	各教科の指導法	英語科教育法1			
		英語科教育法2			
		英語科教育法3			
		英語科教育法4			

<高等学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)	対応授業科目(4)
2	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論		
			英語音声学概論		
3		英語文学	英文学概論		
			米文学概論		
4		英語コミュニケーション	Advanced Oral Communication 1		
			Advanced Oral Communication 2		
5		異文化理解	異文化コミュニケーション論		
6-7	各教科の指導法	英語科教育法1			
		英語科教育法2			
		英語科教育法3			
		英語科教育法4			

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語学

全体目標: 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。

到達目標: 1) 英語の音声の仕組みについて理解している。
 2) 英語の文法について理解している。
 3) 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。

<外国語(英語)コアカリキュラムチェック表>

＜外国語（英語／ロシア語／中国語）＞

英語学		項目			
		到達目標 ／授業回	1)	2)	3)
(授業科目名及び授業回のページ番号)	英語学概論 (P.122)	1			○
		2			○
		3			○
		4			○
		5			○
		6		○	
		7		○	
		8		○	
		9		○	
		10		○	
		11		○	
		12		○	
		13			○
		14			○
		15			○
	英語音声学概論 (P.123)	1	○		
		2	○		
		3	○		
		4	○		
		5	○		
		6	○		
		7	○		
		8	○		
		9	○		
		10	○		
		11	○		
		12	○		
		13	○		
		14	○		
		15	○		

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語文学

全体目標:

英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

到達目標: 1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。
 2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。
 3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。

<外国語(英語)コアカリキュラムチェック表>

英語文学		項目			
		到達目標 ／授業回	1)	2)	3)
(シラバスの 授業科目名及び ページ番号 授業回)	英文学概論 (P.124)	1			○
		2	○	○	○
		3	○	○	○
		4	○	○	○
		5	○	○	○
		6	○	○	○
		7	○	○	○
		8		○	○
		9	○	○	○
		10	○	○	○
		11	○	○	○
		12	○	○	○
		13	○	○	○
		14	○	○	○
		15		○	○
	米文学概論 (P.125)	1			○
		2	○	○	○
		3	○	○	○
		4		○	○
		5	○	○	○
		6		○	○
		7	○	○	○
		8		○	○
		9	○	○	○
		10	○	○	○
		11	○		○
		12	○		○
		13	○		○
		14	○		○
		15	○		○

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語コミュニケーション	
全体目標:	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。
到達目標:	1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語コミュニケーション		項目					
		到達目標 ／授業回	1)	2)	3)	4)	5)
(授業科目名及び授業回数) シラバスのページ番号	Advanced Oral Communication 1 (P.126)	1	○	○	○	○	○
		2	○	○	○	○	○
		3	○	○	○	○	○
		4	○	○	○	○	○
		5	○	○	○	○	○
		6	○	○	○	○	○
		7	○	○	○	○	○
		8	○	○	○	○	○
		9	○	○	○	○	○
		10	○	○	○	○	○
		11	○	○	○	○	○
		12	○	○	○	○	○
		13	○	○	○	○	○
		14	○	○	○	○	○
		15	○	○	○	○	○
	Advanced Oral Communication 2 (P.127)	1	○	○	○	○	○
		2	○	○	○	○	○
		3	○	○	○	○	○
		4	○	○	○	○	○
		5	○	○	○	○	○
		6	○	○	○	○	○
		7	○	○	○	○	○
		8	○	○	○	○	○
		9	○	○	○	○	○
		10	○	○	○	○	○
		11	○	○	○	○	○
		12	○	○	○	○	○
		13	○	○	○	○	○
		14	○	○	○	○	○
		15	○	○	○	○	○

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

異文化理解

全体目標:

社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。

- 到達目標: 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。
 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。
 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

異文化理解		項目			
		到達目標 ／授業回	1)	2)	3)
(シラ 業 バ 科 目 の 名 及 び 授 業 番 号)	異 文 化 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 論 (P.138)	1回目	○		
		2回目	○	○	○
		3回目			○
		4回目			○
		5回目	○		
		6回目	○		
		7回目	○		○
		8回目			○
		9回目			○
		10回目	○		○
		11回目			○
		12回目	○		○
		13回目	○		○
		14回目	○		○
		15回目		○	

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語科の指導法【8単位程度を想定】

全体目標： 中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

(1)カリキュラム/シラバス

一般目標： 中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

到達目標 1) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領について理解している。
2) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の教科書について理解している。
3) 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力(以下、「3つの資質・能力」という)とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。
4) 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教科書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。

(2)生徒の資質・能力を高める指導

一般目標： 中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。

到達目標 1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
3) 話すこと[やり取り・発表]の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
6) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
7) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
8) 語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
9) 文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。
13) ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。
14) 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。

(3)授業づくり

一般目標： 中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目(高等学校)の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。

到達目標 1) 学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。
2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。

(4)学習評価

一般目標： 中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価基準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと[やり取り・発表]」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」(生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法)について理解する。

到達目標 1) 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価基準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。
2) 言語能力の測定と評価(パフォーマンス評価等を含む)について理解し、指導に生かすことができる。

(5)第二言語習得

一般目標： 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。

到達目標 1) 1) 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。

<外国語(英語)コアカリキュラムチェック表>

英語科の指導法		項目	(1)				(2)														(3)		(4)		(5)
			到達目標 ／授業回	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	1)	2)	1)	2)
(授業科目名及び授業回数) 																									

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語科の指導法【8単位程度を想定】

全体目標:	中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。
(1)カリキュラム/シラバス	
一般目標:	中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。
到達目標	1) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領について理解している。 2) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の教科書について理解している。 3) 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力(以下、「3つの資質・能力」という)とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。 4) 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教科書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。
(2)生徒の資質・能力を高める指導	
一般目標:	中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。
到達目標	1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 3) 話すこと[やり取り・発表]の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 6) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 7) 文字の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 8) 語彙、表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 9) 文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 11) 教材及び ICT の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。 13) ALT 等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 14) 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。
(3)授業づくり	
一般目標:	中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目(高等学校)の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。
到達目標	1) 学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。 2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。
(4)学習評価	
一般目標:	中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと[やり取り・発表]」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」(生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法)について理解する。
到達目標	1) 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。 2) 言語能力の測定と評価(パフォーマンス評価等を含む)について理解し、指導に生かすことができる。
(5)第二言語習得	
一般目標:	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。
到達目標	1) 1) 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。

<外国語(英語)コアカリキュラムチェック表>

英語科の指導法		項目	(1)				(2)														(3)		(4)		(5)	
			到達目標 ／授業回	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	1)	2)	1)	2)	1)
(シラバスのページ番号)	英語科教育法 3 (P.145)	1	○	○	○	○																				
		2	○	○	○	○	◎		○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
		3	○	○	○	○	◎		○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
		4	○	○	○	○	◎		○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
		5	○	○	○	○		◎	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		6	○	○	○	○		◎	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		7	○	○	○	○		◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		8	○	○	○	○			○	◎	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		9	○	○	○	○			○	◎	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		10	○	○	○	○			○	◎			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	(5)
		11	○	○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
		12	○	○	○				○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		13	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
		14	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	英語科教育法 4 (P.146)	15	○	○	○	○															○	○	○	○		
1		○	○	○	○																○	○	○			
2		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
3		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
4		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
5		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
6		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
7		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
8		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
9		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
10		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合